

関西支部 LMAG 第 14 回現地講演会 2018/5/14

関西支部第 102 回技術講演会 記録

LMAG 関西 事務局

講演会の概要

講演者： 京都大学情報環境機構教授・京都大学総合生存学館兼任教授 土佐 尚子氏

講演題目： ” カルチュラルコンピューティングからアートイノベーションへ”

詳細は、http://www.ieee-jp.org/section/kansai/activity/meeting_102.html を参照。

日時

2018 年 5 月 14 日(月) 13:30-16:40

場所

(公益財団法人) 京都高度技術研究所 (ASTEM)

10F プレゼンテーションルーム

主催 (Organizer)

IEEE Kansai Section

IEEE Kansai Section Life Members Affinity Group

IEEE Kansai Section Women In Engineering Affinity Group

参加者

25 名

(IEEE 会員 (LMAG 10 名／WIE 1 名／LMAG 事務局 2 名／他 2 名、
非会員 10 名)

講演者、ASTEM の関係者を含む。

プログラム (Program)

13:30 講演会開始

IEEE 関西支部 LMAG VICE-CHAIR 挨拶 5 分

13:35 講演

土佐尚子 京都大学情報環境機構教授・京都大学総合生存学館兼任教授
カルチュラルコンピューティングからアートイノベーションへ

15:00 Q&A

15:30-16:30 ASTEM 紹介

ASTEM 槌田義之研究開発本部長、神原弘之氏、池上周作氏

16:30 記念撮影

講演概要

土佐教授が長年にわたって取り組んでこられたアートとテクノロジーの関りについて、多くのきれいな映像を交えて分かり易く解説して頂いた。

時代時代の優れた芸術作品は、その時代の最先端技術によって創られてきた。いかにして現在の最先端技術で芸術文化を扱えるようにするか、それによって芸術で社会に新しい価値創造（アートイノベーション）をもたらしたい。

インタラクティブ CG や突っ込み漫才の開発から、最近取り組まれている高速度カメラによる自然現象の映像表現を通じ、アートに対する世界の感性の違いや取り組み内容について熱演いただいた。特にドライアイスと染料の織り成す高速度カメラ映像は、とりわけきれいでなにやら幻想的であった。

欧州は人が作成することがアートの条件であるが、アジアでは自然そのものもアートであると理解され、文化の違いが背景にあることなど、興味を引く点が多かった。

Q&A

作成の過程（音楽が先か、映像が先か）や発想の過程（発想が先か実験録画が先か）や、アートの保存方法についての質問があり、熱心&仔細に回答いただいた。

ASTEM 説明

会場を提供いただいた ASTEM の方 3 名から、研究開発の内容や、市内観光促進アプリの開発と紹介などがあり、活発に研究開発が進められていることがよく理解できた。

写真



中村 LMAG Vice Chair の挨拶



講演されている土佐尚子教授



ASTEM の槌田研究開発本部長



講演会場で記念撮影

交流会

講演会終了後、中津良平先生も参加いただき、LMAG 活動の進め方やサロンの企画などを議論しながら、交流の場を持った。



中津先生も加わっての懇親会

以上